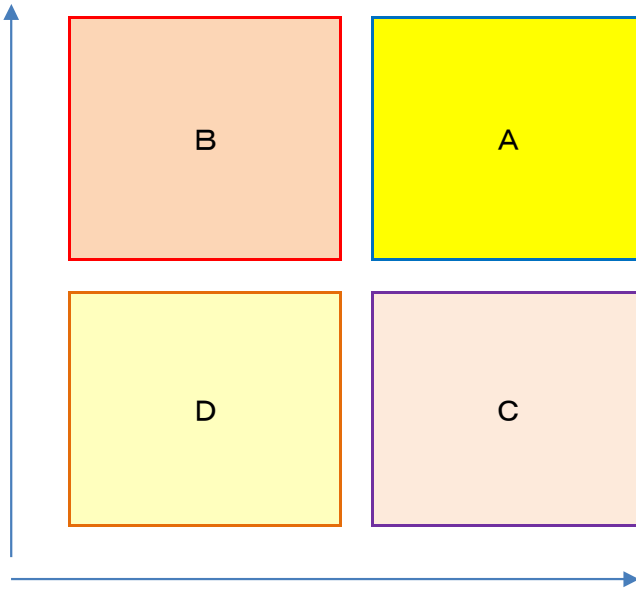


RPAを導入する際の「導入のしやすさ」と「効果」を示す分布図

導入のしやすさ

- ・決められた手順で繰り返し行う単純作業
- ・即時性が低い作業
- ・媒体が電子化されてある
- ・作業環境が一層内で完結する作業



効果

- ・ある程度の処理すべき量がある作業
- ・ある程度の入力箇所数がある作業
- ・使用するアプリの数が複数ある作業

検討の優先度 4段階

[凡例]

- A・・・直ちに(今年度中)に導入に向けた検討が必要
- B・・・数年中(2~3年度中)に導入に向けた検討が必要
- C・・・当分の間、導入に向けた検討の必要がない
- D・・・導入に向けた検討の必要はない

「導入のしやすさ」と「効果」を測るめやすと評価及び評点のもととなる区分 等

縦軸	めやす	めやすとなる基礎項目	基礎項目に係る評価の観点	評点のもととなる区分	左記区分に係る評点
導入のしやすさ	決められた手順で繰り返し行う単純作業	パターン数	「たられば」が少なければ少ないほど、導入しやすい	1~2, 3~4, 5~6, 7~8, 9~10	5, 4, 3, 2, 1
	即時性が低い作業	即時性	即時性が低い作業が前提	受付後、月に1回、週に1回、日に1回	5, 3, 1
	媒体	扱う媒体	紙媒体よりも電子媒体のほうが、導入しやすい	既に電子媒体、電子媒体にできる、紙媒体(印字)、紙媒体(手書き)	(10段階評点) 10, 8, 4, 2
	作業環境(階層)	一層環境	作業環境が一層内で完結していればいるほど、階層を越える必要がなく、導入しやすい	一層、二層、三層	5, 3, 1
	各作業に係る計				
横軸	めやす	めやすとなる基礎項目	基礎項目に係る評価の観点	評点のもととなる区分	左記区分に係る評点
効果	ある程度の処理すべき量がある作業	作業時間	処理に係る時間が多ければ多いほど、職員の作業時間削減の効果が高い	1件あたりの処理時間(分)	10分=1
		件数	処理すべき件数が多ければ多いほど、職員のすべき作業量削減の効果が高い	件数/年	10件数=1
	ある程度の入力箇所数がある作業	入力(作業)箇所数	入力すべき箇所数が多ければ多いほど、職員の手間削減の効果が高い	箇所数	1箇所=1
	複数アプリ間での同時処理する作業	アプリケーションの数	多ければ多いほど、職員の手作業削減の効果が高い	~5, 4, 3, 2, 1 個	5, 4, 3, 2, 1
各作業に係る計					